

## 部首に強くなると、漢字はさらに面白くなる

すべての漢字は、基本的に象形文字と指事文字、そしてそれらを篇、旁、脚、繞、垂、構といった部首として組み合わせた会意文字と形声文字からできています。ところが、象形文字や指事文字が部首として使われる際には、“木(木扁)”や“魚(魚扁)”などのように元の形がすぐわかるものばかりではなく、水の意味で使われる“氵(三水)”が水を表しているというように、一部が省略、変形されたり、あるいは部首だけにしか使われない特殊な形をしている場合も多いものです。

そこで、お子さんが部首に関して「これは、どういう意味?」「何でこういう形をしているの?」というような興味を示すようになったら、析に触れ、部首のもつ意味についても調べてみるといいでしょう。

たとえば“隹(ふるとり)”という部首が“鳥”と同じように鳥の形を表した象形文字であることがわかると、“雀”や“雉”に“鳥”的代わりに“隹”がついている理由もよくわかります。また、“胸”“腰”“脚”など、体の部分の名称になぜ“月”的字がついているのかは、文字を見ただけではわ

かりにくいものですが、「この“月”はお月様の月ではなく、食べるお肉に細かいスジが入っているところを表した“肉”的字を表しているの。だから“肉月”と言って、休の一部を表す言葉によく使われる」と説明すれば、子どもでも納得がいくのです。

さらに、人や手といった意味を表す部首は、よく知られた“人(人扁)”や“手(手扁)”以外にも、たくさんバリエーションがあります。たとえば“ク”“戸”“儿”“匕”といった部首もすべて人を表すものです。

ですから“見”という字は、人は目でものを見るという意味から“目”と“人”を組み合わせたものですし、並ぶ、比べるの意味で使われる“比”は二人の人間が並んだ姿を表したものです。

一方、“ナ”“又”“ヨ”“丂”などはすべて手を意味する部首で“友”という字は、手を二つ組み合わせて仲のよい友達、“雪”は手のひらにのった雨、“右”は食べ物を口に運ぶ手、“左”は定規(工)を持つ手、という意味を表しています。

このように、部首の意味までわかってくると漢字や言葉への理解はさらに深まり、知らない漢字に出会っても、その部位を手がかりに、まず意味や読み方を自分で考えてみようという意欲が自然に身についてきます。

また、こうした漢字の基本的な構造が、おぼ



部首の意味がわかると理解が深まる

ろげながらでも頭に入っていると、小・中学生になって丸暗記能力が低下してきても、部首から論理的、体系的に漢字を理解することができるので、漢字の学習で苦労したり漢字嫌いになることはまずないのです。

なお、こうした漢字の成り立ちの学習には、小学校六年間で学ぶ漢字 1,006 字の成り立ちをすべてわかりやすく解説した『楽しい漢字教室』(石井勲著・ぎょうせい刊)などを活用していただくといいでしょう。